

景観資源周辺での景観形成 ①【坂道】

景観形成の方針

(1) 【坂道】からの眺めの変化や擁壁、法面を活かし、周囲の緑化や歴史資源等と一体になった沿道の景観づくりを進めます。


国分寺崖線及び南北崖線の周辺は、坂道の多い街並みで、坂道からの眺めや坂道沿いの擁壁、周辺にある緑や歴史資源などが特徴です。【坂道】とそれらの特徴が調和し、相互に引き立て合う景観づくりをめざします。(A1, C1, C2, D1, D2)



	基準	解説と例
	A1 【坂道】に面してオープンスペースを設けたり、高層部を後退させるなどし、圧迫感の軽減を図る。	<p>坂道に面して大きな壁面や擁壁が直立しないように工夫することで、圧迫感を軽減するとともに、変化のある眺めを活かしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●坂道から眺めが見通せるように高層部を後退する ●坂道沿いの地下駐車場入口は後退して設ける ●坂道沿いに休憩できる場所を確保する など
A 配置	 <p>○通学路でもある坂道から壁面を後退して緑化しています。(上池台 A1)</p>	 <p>○擁壁と建築物を一体にして、高層部は後退しています。(田園調布 A1)</p>

C 形態・意匠・色彩

基準	解説と例
C1 【坂道】沿いでは、建築物の低層部が勾配になじむよう工夫する。	<p>【坂道】に接する低層部は、勾配に合わせた形態・意匠を隣地ときめ細かく合わせていくことで、表情豊かでつながりのある街並みにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 勾配に応じた階段状の建て方にする ● 坂道に沿ったスキップフロアの店舗にする など
C2 【坂道】沿いに開口部を設けたり分節するなど、無表情にならないようにする。	<p>【坂道】に対し単調な壁面を向けることなく、【坂道】の変化に富んだ眺めや風情を活かすようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人の気配が感じられる窓やバルコニーを坂道に向ける ● 坂道の曲折を意識した壁面の凹凸をつける など



○階段状の低層部の連なりや、坂道から脇への見通しなどの特徴を活かしましょう。(C1)

D 公開空地・外構・緑化

基準	解説と例
D1 【坂道】沿いで、擁壁や塀を設置する場合は、自然素材の使用や緑化などを積極的にを行い、周囲との調和を図る。	<p>擁壁や法面の緑化や自然素材の使用により、周囲と調和した特徴的な沿道景観としましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 擁壁を勾配のある自然石積みとする ● 擁壁を道路から後退して前面下部を緑化する など
D2 【坂道】に面する部分の緑化を積極的に行う。	<p>【坂道】に面して緑化を行い、うるおいのある景観をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 坂道沿いに緑のトンネルをつくるよう緑化する など



○坂道に緑化法面ですりつけて、歩行者への圧迫感を軽減しています。(D1, D2)



○垂直擁壁は周囲との調和を図り高さを抑えて、素材など工夫しましょう。(D1)



○坂道に沿ってアプローチを設け、桜並木とすることでゆとりある空間をもたらしています。(山王 D2)

景観資源周辺での景観形成 ②【海・河川・運河等】

景観形成の方針

(1) 水辺の開放感や眺めを活かし、周辺の自然や歴史資源、橋梁などの構造物などと一体になった景観づくりを進めます。

水辺の開放感や橋梁などからの眺めを意識するとともに、公園・緑地、河川沿いにある社寺、河川の視点場となる橋梁などと、【海・河川・運河等】が一体になった景観づくりを進めます。(A2, D1, D3)

(2) 親水性があり、水辺の空間で快適に過ごせるような景観づくりを進めます。

【海・河川・運河等】の周辺では、歩行空間の充実や緑化などを積極的に行い、人々に親しまれる環境づくりをめざします。(A1, C2, D1)



基準	解説と例
A1 敷地が水域に接する場合は、水域側にオープンスペースを設け、水域からみた場合の圧迫感の軽減を図る。	水域側にオープンスペースを設けることによって、水辺の開放感を高めましょう。 ● 水辺に面する部分に緑地帯を設け、高層部を後退する など
A2 水辺の開放感や見通しに配慮する。	橋梁や堤防からの見通しや見晴らしに配慮しましょう。 ● 見通しのある水際側では壁面を後退する ● 棟の間に水辺に向かう見通しを確保する など

A 配置



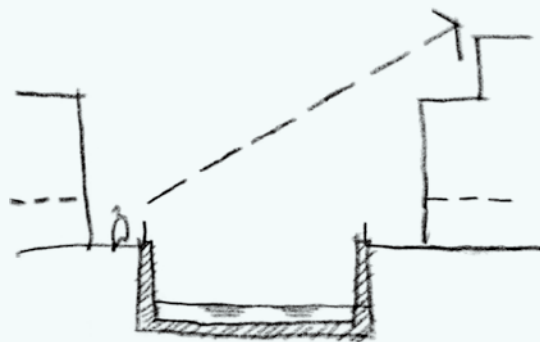
○河川沿いの道路から後退して、堤防の桜並木と一体の植栽を行っています。(下丸子 A1)



○水辺の見晴らしを活かす配置の場合、水際の見通しへの配慮しましょう。(東笹谷 A1)

C 形態・意匠・色彩

基準	解説と例
C1 水辺の緑や開放感と調和した落ち着いた色彩とする。	<p>周囲の建築物や水辺の緑と調和した、水辺の景観になじんだものとしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空を背景とする高層部は明度が高めの色彩を基調とする ● 川沿いの緑となじむ暖色系の色彩を用いる など
C2 水辺に面して開口部を設けたり分節するなど、無表情にならないようにする。	<p>橋梁や水上などからの見え方に配慮し、単調な街並みにならないようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テラスやバルコニーを水辺側に向ける ● 水辺に開かれた開放的な開口部を設ける など



○水面の幅に対する軒線の高さを工夫しましょう。(C2)



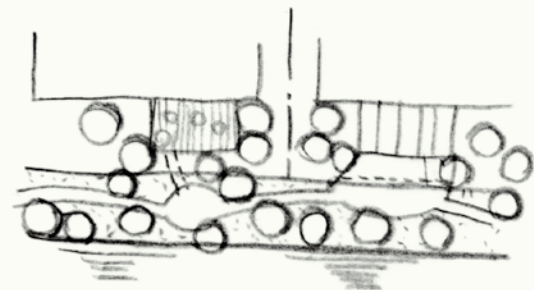
○水辺の桜並木を眺められるロビーを設けています。(蒲田 C2)

D 公開空地・外構・緑化

基準	解説と例
D1 水辺沿いにオープンスペースを確保し、隣接するオープンスペースと連続性を持たせる。	<p>隣接するオープンスペースと連続することで、水辺の開放感を高めるとともに、一体的に利用できるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水辺側に公開した通路、広場をとる ● 水辺のプロムナードの計画に沿った散策路を確保する など
D2 水辺に面する部分の緑化を積極的に行う。	<p>水辺に面して緑化を行い、うるおいのある景観をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヤナギ、サクラ、クロマツなど水辺らしい樹種を用いる など
D3 敷地と水域の境界部に塀や柵を設ける場合は、できる限り開放性のあるものにする。	<p>水辺に面して透過性の高い塀や柵を用いることで、水域と敷地の連続性を確保しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水辺側を前庭として開放的な外構にする ● 目立たない暗色のフェンスを生垣の内側に設ける など



○運河、遊歩道に面して開放的なデッキテラス状のスペースを確保し、展示等にも利用しています。(D1)



○水辺に面する緑地やオープンスペースが連続していくようにしましょう。(D1, D2)

景観資源周辺での景観形成 ③【道路】

景観形成の方針

(1) 沿道の特徴的な景観を活かし、快適に歩くことができる【道路】となるよう、沿道と一体となった景観づくりを進めます。

蒲田・大森駅周辺のシンボル道路、区を横断する桜のプロムナード、旧六郷用水散策路など、街路樹や花、歴史などを楽しめる特徴的な道路が点在しています。道路ごとの性格に応じた快適な区間となるように、街路樹などの緑との一体性や、緑豊かな環境を楽しめる開かれた構えのデザインが求められます。(A1, C1, C2, D1, D2)



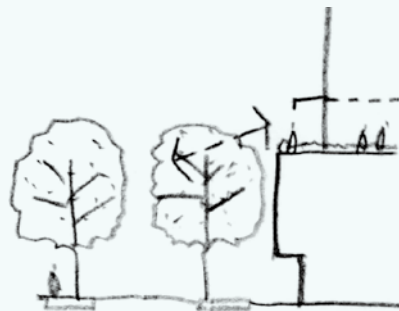
	基準	解説と例
	A1 【道路】の道路境界線から壁面を後退させるなど、街路樹や周辺の建築物などとの調和に配慮する。	<p>壁面後退部分を緑化することで、街路樹を活かした【道路】と一体感のある景観をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道路沿いの塀や柵を後退し前面に緑地帯を確保する ● 周囲からの見え方を意識し、まちかどに小広場を設ける ● 【道路】に沿った棟配置で街並みの連なりをつくる など
A 配置	 <p>○大規模な敷地で、道路沿いに低層棟を配することで、街路樹のある歩道と沿道が一体になった街並みをつくっています。(下丸子 A1)</p>	 <p>○雁行する建て方で通りに特徴づけ、街路樹との調和も図っています。(中央 A1)</p>

C 形態・意匠・色彩

基準	解説と例
C1 街路樹や周辺の建築物などとの調和を図る。	道路幅員や街路樹の高さ、周辺の建築物の軒線の高さに応じた建て方にする事で、沿道と一体となった景観をつくりましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 高層部を後退して軒線を抑え、勾配屋根をつける ● 街路樹を見下ろす高さにテラスを設ける など
C2 【道路】に面して開口部を設けたり分節するなど、無表情にならないようにする。	【道路】からの見え方に配慮し【道路】沿いの街並みが単調なものにならないようにしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 街路樹の間隔に合わせるように棟を分節した建て方にする ● 街路樹のある街並みに配慮してガラス面を設けるなど開放感のある計画とする など



○街路樹に面して高層部は後退して隣棟間隔を確保し、空への広がり確保しています。(C1)



○街路樹を見下ろす高さにテラスを設けることで、緑を楽しめるとともに、街路樹を意識した軒線にすることができます。(C1)



○周辺の街並みと調和するように分棟してスリットを設けた建て方にしています。(西蒲田 C2)



○街路樹を眺められる開放的な建築物となっています。(C2)

基準	解説と例
D1 【道路】との連続性に配慮し、オープンスペースの緑化や外構のデザインを工夫する。	街路樹と連続した緑化や歩道と一体となったオープンスペースを設け、【道路】と沿道が一体となった景観づくりを進めましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 前面に植栽などを設置し沿道と樹種を含めて一体感のあるように計画する など
D2 【道路】に面する部分の緑化を積極的に行う。	街路樹と調和する樹種にしたり、壁面やバルコニーを緑化したりすることにより、道路と沿道が一体となった緑の景観づくりを進めましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 季節感や樹形について街路樹との組み合わせに配慮する など



○道路の街路樹と沿道の緑が一体となって、緑の軸になるように樹木などの組み合わせを考慮しましょう。(D1)

D 公開空地・外構・緑化

景観資源周辺での景観形成 ④【文化財等】

景観形成の方針

(1) 【文化財等】と調和した景観となるよう、周囲の景観づくりを進めます。



多摩川台公園の古墳群、美原通り（旧東海道）などの旧道、田園調布や馬込、山王などに点在する近代住宅など、区内には歴史的価値の高い文化財等が多くあります。【文化財等】の周囲では、それらを引き立て、調和するような景観づくりをめざします。(A1, C1, D1)

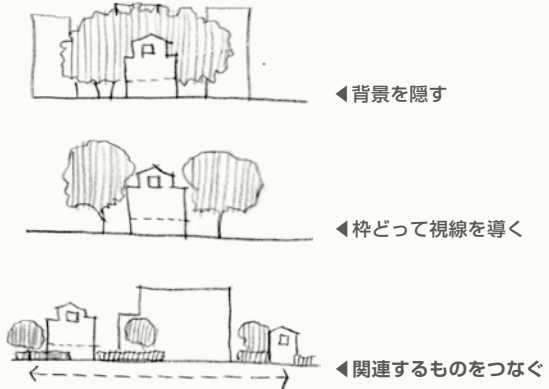

(2) 【文化財等】と緑地や水辺が一体となって楽しめるような周囲の景観づくりを進めます。

【文化財等】は、周辺の緑地や水辺と一体となり、まとまりのある雰囲気形成しています。【文化財等】の周辺においても、その雰囲気を継承した景観づくりを進めます。(D1, D2)



	基準	解説と例
	A1 【文化財等】に面してオープンスペースを設けたり、高層部を後退させるなどし、圧迫感の軽減を図る。	<p>【文化財等】の周囲では、オープンスペースを設け、【文化財等】への見通しを確保することで、圧迫感を軽減するとともに、道路や水辺などからよく見えるよう工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 壁面を後退して【文化財等】の全景が見えやすくする ● ピロティを通して敷地奥の【文化財等】を見せるようにする など
A 配置	 <p>○神社につながる参道の見通しを確保し、広場を設けています。(A1)</p>	 <p>○【文化財】等を引き立てるように間に緑地を確保したり、低層部で関係づけましょう。(A1)</p>

	基準	解説と例
C 形態・意匠・色彩	C1 彩度・明度を抑えた落ち着いた色彩や、低層部には周辺の【文化財等】を意識させる材料を用いるなど、【文化財等】の雰囲気との調和に配慮する。	<p>【文化財等】やその周辺の持つ雰囲気に配慮して、色彩や材料を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町家建築の隣では、庇や格子のデザインを採り入れる ● 建築物が【文化財等】の背後にある場合はそれを考慮した色彩とする など
	C2 【文化財等】に面して開口部を設けたり分節するなど、無表情にならないようにする。	<p>【文化財等】とともに見える街並みが単調にならないよう工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旧道などの街並みで格子や庇の意匠を工夫する など
	 <p>○町家建築に合わせた格子、庇などにより歴史を感じさせます。(池上 C1)</p>	 <p>○参道に面して木組み状の立面や1階の庇を意匠にすることで調和を図っています。(C1, C2)</p>

	基準	解説と例
D 公開空地・外構・緑化	D1 【文化財等】の見え方や一体性に配慮した塀や門扉とし、緑化を積極的に行う。	<p>【文化財等】の見え方に配慮して周辺の外構の意匠を合わせたり、緑化を工夫することによって、【文化財等】を引き立てましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 塀や門扉の構えは歴史的建造物と連続したものにする ● 緑で縁取ったり、背景の雑多な風景を見切ったりする など
	D2 【文化財等】に面する部分の緑化を積極的に行う。	<p>【文化財等】に面して緑化を行い、うるおいのある景観をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【文化財】に面する場所はそれに関連づけた緑化を行う など
	D3 敷地と【文化財等】の境界部に塀や柵を設ける場合は、できる限り開放性のあるものにする。	<p>【文化財等】に面して塀や柵を設ける場合は、道路などから【文化財等】が見えるように、透過性のあるものにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目立ちにくい色彩のフェンスや生垣にする など
	 <p>○緑をデザインすることで【文化財等】を引き立てるよう工夫しましょう。(D1)</p>	 <p>○歴史的建築物の建つまちかどで、対面を意識したテラスや植栽を設けています。(D2)</p>

景観資源周辺での景観形成 ⑤【公園・緑地】

景観形成の方針

(1) 【公園・緑地】の開放感をより高めるように、【公園・緑地】と周囲が一体となった景観づくりを進めます。

【公園・緑地】の見通しや開けた空間、緑を活かし、それらと連続したオープンスペースや緑を確保することで、【公園・緑地】と一体となった、快適な空間の創出をめざします。(A1, C1)



	基準	解説と例
	A1 【公園・緑地】に面してオープンスペースを設けたり、高層部を後退させるなどし、圧迫感の軽減を図る。	高層部を後退し、緑化するなどし、圧迫感を軽減するとともに、【公園・緑地】周辺的环境向上につなげましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 高層部を分棟し、見通しや開放感を確保する ● 公園に面する部分を緑豊かなアプローチとする など
A 配置	 <p>○公園からの眺めに配慮した屋根を設けたり、高層部を分けたりしましょう。(A1)</p>	 <p>○公園外周のプロムナードに面して、雁行した建て方にして、緑化しています。(A1)</p>

C 形態・意匠・色彩

基準	解説と例
<p>C1 【公園・緑地】の緑や開放感と調和した落ち着いた色彩とする。</p>	<p>【公園・緑地】の緑などとの調和を図り、【公園・緑地】とその周辺が一体の景観となるよう工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高明度・高彩度の色彩は避ける など
<p>C2 【公園・緑地】に面して開口部を設けたり分節するなど、無表情にならないようにする。</p>	<p>【公園・緑地】に顔を向けるなど、【公園・緑地】からの見え方に配慮し、単調な街並みにならないようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園に向けて窓やバルコニー、テラスをとる など



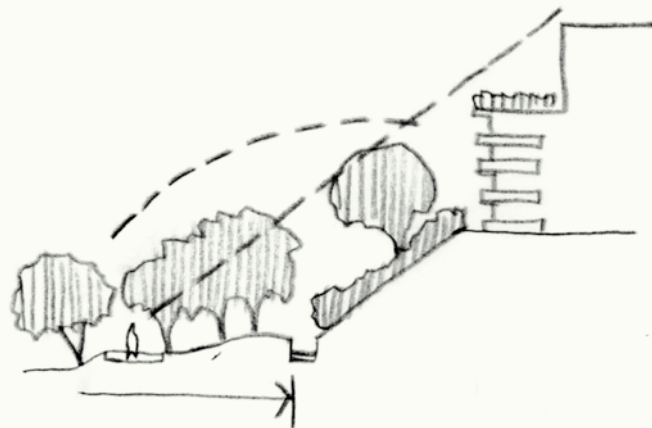
○緑地を背景に緑青色の屋根で調和を図っています。(池上 C1)



○公園に向けて大きな窓やバルコニーを設けるとともに、境界部を緑化し、公園の緑を楽しむ暮らしを感じさせます。(南千束 C2)

D 公開空地・外構・緑化

基準	解説と例
<p>D1 【公園・緑地】に面する部分の緑化を積極的に行い、【公園・緑地】の緑との連続性に配慮する。</p>	<p>【公園・緑地】の緑と連続した緑化を行うことで、【公園・緑地】周辺の環境向上につなげましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園と対面する場所で公園の緑に考慮した広場を設ける ● 公園の緑とつながりのある法面緑化を行う など



○公園に面して公園の緑と一体となった緑化を進めましょう。(D1)

景観資源周辺での景観形成 ⑥【鉄道】

景観形成の方針

- (1) 車窓の眺めを楽しむことができる東京モノレールや京浜急行線本線・空港線の高架部分の沿線では、その眺めを活かした景観づくりを進めます。

【鉄道】線路の高架部分からは、大田区の市街地や、より遠方の景色を眺めることができます。車窓からの眺めを活かし、開放的な景観の演出を図ります。(A1, A2)

- (2) 市街地を通過する【鉄道】の沿線では、親しみやすい沿線景観となるよう配慮するとともに、眺めが開ける場所ではそれを活かします。

沿線を樹木や花などで緑化するなど、親しみやすい空間をめざします。また、高架部分や市街地より高い部分を通過する場合は、車窓からの眺めを活かした景観づくりを行います。

(A1, A2, C1, C2, D1)

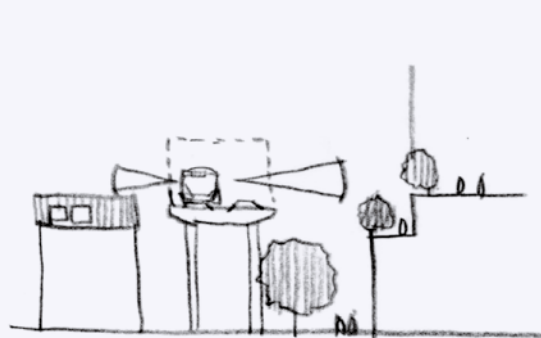


基準	解説と例
A1 【鉄道】沿線では車窓から見える部分で閉鎖的な壁面や広告物が連ならないように配慮する。	<p>車窓からの見通しをできる限り確保できるよう建築物の配置を工夫し、眺めを楽しめるようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【鉄道】に面する高さでは長大な壁面にしない ●【鉄道】に面して大規模な広告物ばかりにならないようにする など
A2 屋根、屋上、壁面に設備や工作物等を設ける場合は、【鉄道】車窓からの見え方に配慮する。	<p>設備や工作物は、車窓から見えにくい場所に配置しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【鉄道】側に設ける設備や工作物には格子状の目隠しを設ける など

A 配置



○鉄道沿いを、駅に向かう歩行者通路とし、並木を設けています。(下丸子 A1)



○高架からの見え方を意識した見通しの確保や緑化、屋上設備等の整理を工夫しましょう。(A1, A2)

C 形態・意匠・色彩

基準	解説と例
C1 駅周辺では、にぎわいや人の動きが意識できるよう低層部の外観に配慮する。	<p>駅や駅前広場に面する低層部は歩行者を意識してにぎわいを生み出すよう工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駅前広場に沿って、低層部は開放的な店先やデッキテラスが連続するようにする など
C2 【鉄道】に面して開口部を設けたり分節するなど、無表情にならないようにする。	<p>【鉄道】沿いの街並みが単調なものにならないよう工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バルコニーやテラスがある開口部を向ける ● 店舗や公共的な施設では内部の活動が見える開口部を設ける など



○駅前広場に向けて駅や店舗等が開放的な顔をむけた建て方になっています。(北千束 C1)



○開口部に変化をつけたり、広告物を整理したりして鉄道からの眺めに配慮しています。(大森西 C2)

D 公開空地・外構・緑化

基準	解説と例
D1 【鉄道】に面する部分では、できる限り緑化を図り、緑の連続性に配慮する。	<p>【鉄道】に面する部分では車窓からの眺めに配慮し、緑が連続するようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 線路脇の道路に沿って生垣や植込を設ける ● 車窓から見える法面を草花で緑化する ● 【鉄道】側の設備機器を隠すよう緑化格子で修景する など



○【鉄道】に面する壁面に緑化格子を設けています。(中央 D1)



○鉄道高架沿いを緑化することで、騒音や圧迫感を軽減することもできます。(大森北 D1)